「歴史編下」目次

口絵　「信仰の山・歴史の山　子檀嶺岳」「青木村義民太鼓」「わが村・わが地区」
村歌「常磐のみどり」
発刊のことば……青木村村長　宮原栄吉
監修のことば……監修者　黒坂周平
例　言

第一章　明治期の青木村

第一節　新しい時代と青木村

版籍奉還……1
明治維新と上田藩　版籍奉還当時の青木村
廃藩置県……2
上田藩〜上田県〜長野県
戸籍の区と区制……2
戸籍法の制定と施行
戸長・副戸長と百姓代
大区小区制……4
大区と小区　小区の村々
明治初期の村々……6
チャラ金騒動　村方三役の公選
戸長役場と連合戸長役場
青木村の成立……9
村名の由来　青木村誕生までの経過
第一回村議会議員選挙
郡制の誕生……13
小県郡の誕生と小県郡役所
本村から選出された郡会議員
村政のしくみ……14
役場の組織　村内の区画
村の財政……14
明治初年の税地・貢租・戸数・人数調書
明治二十七年歳出入決算書

第二節　「世界の中の日本」をめざして

徴兵制の公布……20
国民皆兵の徴兵令
兵役の免除制度……20
不平等な兵役免除　兵隊よけ

本村における兵隊よけの実例……20
五歳の子を養子に　養子縁組の約定書
西南戦争のあらまし……21
西郷隆盛の反乱
従軍者と戦没者……21
本村の従軍者
日清戦争のあらまし……22
朝鮮半島の支配権争い
軍資金の献納……22
戦争協力のためのお金　「献納金申立書」
従軍者と戦没者……22
本村の従軍者一八人
日露戦争のあらまし……22
中国東北部の支配権争い
戦場と故郷を結んだ手紙……23
戦地から故郷へ　婦人会からの慰問文
従軍者と戦没者……25
本村の従軍者一四一人　戦没者一五人
明治時代の軍人援護活動……25
従軍者に贈った感謝状
大正時代の軍人優待会……26
青木村軍人優待会
村をあげての兵士・家族への援護
昭和時代の援護活動……26
寄せ書き・千人針・慰問
慰問袋……26
慰問袋の中身

第三節　農業生産

稲作りと養蚕……27
水田・桑園の収入
稲の作り方と蚕の飼い方
農会の発足の概要……31
農業団体の草分け
農会の組織・運営……32
会員数八一九人　会長は村長
農会の事業と活動……32
農業生産の技術指導・講習会
産業組合の設立と経過……33
各地にできた信用購買組合
無尽講の流行
地租改正と農民の負担……34
現物納から金納へ　苦しい農家の生活
小作農への転落

第四節　各種産業

明治初年のあらまし……38
男稼ぎと女稼ぎ
製糸業……38
村松の座繰工場　青木村の製糸場
蚕種業……39
養蚕農家から蚕種製造家へ
専業蚕種製造業者
鉱業(炭鉱)……40
田沢炭鉱株式会社　修那羅炭鉱

紙すき業 …… 42
紙すき業から養蚕業へ　楮の抜根の奨励
第五節　林　業
山林の所有区分 …… 43
官有地と民有地　民地引直しの請願
官有地下戻し運動
田沢山十四地区共有地 …… 45
入会山から共有地へ　共有地の経営
山手米御年貢
入会林野の争い …… 46
田沢山と滝山の入会争い
第六節　水利と水利紛争
藪下水路と柿ノ木堰 …… 49
昔の流れと今の流れ
水利妨害殴打創傷事件 …… 49
裁判にまでなった殿戸と浦野の水争い
堰と溜池 …… 52
主な堰の流れと溜池
第七節　自衛消防から公設消防へ
上田町の大火事 …… 55
チャラ金騒動の火事
明治のころの消防器具
火消のころ …… 55
当郷消防組沿革誌
火消から消防へ …… 56
夫神村消防費　こわして延焼を防ぐ
自治消防組の結成 …… 57
消防組の沿革　火事見舞帳
公設消防組 …… 58
組織　巡検　金馬簾　最初の殉職者
消防の経費
器具と設備の充実 …… 61
バケツ三〇個四円八〇銭
第八節　警察と司法
青木村駐在所 …… 61
駐在所の沿革
裁判所の移り変わり …… 62
聴訟司から長野地方裁判所上田支所まで
第九節　交通と通信
道路の分布 …… 63
主要道路と掃除丁場
二線路の開通 …… 64
七道開削事業の二番目の路線　峠と道
信越線・篠ノ井線開通の影響 …… 67
道路敷に木が生えた二線路
上田駅の開業と青木村
陸運会社と中牛馬会社 …… 68
半官半民陸運会社と民間運輸会社
人力車と乗合馬車 …… 68
青木―上田間二〇銭～二二銭
上田―松本間八〇銭

荷車・運送馬車と自転車・リヤカー ……68
馬車の往来のはげしかった青木街道
本村の自転車第一号
郵便制度のはじまり ……70
二つ折の葉書　日当一〇銭の郵便配達
郵便・電信・電話の開設 ……70
青木に郵便受取所開設
洋風二階建の局舎新築
電信業務の開始
電話加入者六人
第十節　保健と衛生
避病院の建設 ……73
伝染病の時代　漆原地籍から宮ノ窪へ
伝染病予防委員 ……75
伝染病予防委員会設置規定
伝染病の流行 ……75
毎年のように発生した赤痢と腸チフス
村をあげての大種痘 ……77
本村の種痘状況
第十一節　商業と金融機関
これまでの商業活動 ……80
二線路開通のころ青木には家が六軒
商業活動のめばえ ……80
多かった農業と兼業の小売商
青木商店街の発展 ……81
村の中心地になった青木の商店街
庶民金融 ……82
質屋　盛んだった無尽講
近代的金融機関 ……83
村にできた銀行と信用組合
第十二節　温　泉
湯治場としての田沢・沓掛温泉 ……85
最大の慰安、湯治　はたごと自炊
田沢温泉 ……85
温泉にまつわる伝承　温泉の効能
沓掛温泉 ……86
温泉にまつわる伝承　温泉の効能
湯治場の移り変わり ……87
湯治から避暑型へ　増築をかさねた旅館
当時の名所旧跡
その他の入浴施設 ……87
当郷の塩之入鉱泉
第十三節　教　育
寺子屋の教育 ……89
盛んだった寺子屋教育　各地区の寺子屋
夜学会と文庫 ……91
盛んだった夜学会　各区の文庫の開設
学制頒布直後の学校 ……92
学制頒布のねらい　大・中・小学区制
明治初期の学校 ……93
四か所にあった学校
初等三年・中等三年・高等二年

小学校設立のいきさつ ……94
青木学校　分教室　支校　派出所
教科書・学用品・服装 ……96
石板と石筆で勉強
校舎移転新築のいきさつ ……96
難航した校舎新築
本校舎・分教場の新築
明治期終りごろの児童数
学校の生活 ……100
修学旅行　運動会
実業教育のはじまり ……100
補修科の設置
第十四節　文化と文芸
欧米文化へのあこがれ ……101
そのころの青木村民気質
新しい時代と青年たち
村誌の編纂 ……102
長野県町村誌のもと
藤村とますや ……102
千曲川のスケッチ「山の温泉」
「老嬢」の舞台
同窓会報 ……102
会報の役割　健筆をふるった人たち

第二章　大正から昭和初期の青木村

第一節　大正デモクラシーと農民
米騒動 ……105
主婦たち米屋を襲撃　内閣の総辞職
普通選挙権獲得運動 ……105
納税資格から二五歳以上の男子へ
護憲運動 ……105
政党政治の実現を要求
治安維持法による暗黒政治 ……106
社会活動や言論の抑圧　軍国主義体制へ
本村の農民運動の背景 ……106
反骨精神と正義感　革新思想の台頭
本村の農民運動の消長 ……107
青木村農民組合の誕生　弾圧される活動
青木村農民組合の結成 ……107
修那羅山で紺襦袢、紺股引の結成大会
愛唱された農民歌 ……108
農民組合の班活動 ……109
深更におよぶ班会議
村税にたいする抗議運動 ……109
署名運動の展開
小学校増改築にたいする主張 ……109
組合独自の主張

単独組合から全農支部へ……110
全国農民組合青木村支部
農会廃止運動……110
農会廃止既成同盟
青年訓練所廃止運動……110
軍国主義教育反対　初めての処罰
反農民組合団体の結成……111
村民同志会　対立を深める両派
上小農民組合第二回大会……111
臨検の中止命令　事前検束
山本宣治の暗殺……112
追悼大演説会　山宣記念碑
農民組合と地方選挙……113
学校移転問題のからんだ村議戦
組合から県議、村議選に立候補
失業救済工事賃金闘争……113
最低七〇銭の要求
他地区への争議の応援……114
西塩田前山の小作争議
自転車かついで室賀峠越え
全農青木支部の解散……115
二・四事件　農民運動の終息
農民組合の中心的活動をした人々……116
戦場へ送られ消息不明の活動家
第二節　村の政治
地方自治の拡大……117
町村制の改正　選挙権の拡大
村の財政……118
増大する村の歳費と村税の増額
第三節　活発化する青年会・婦人会
青年会の動き……121
官製青年会から自治的経営へ　青年会の創立と活動
時報の発刊……122
青年会時報部　情報源としての時報
女子青年団（処女会）……123
各地区で処女会を結成　青木村処女会の発足
婦人会の発足と活動……124
婦人会の発起人は男性
女性の地位の低さありあり
第四節　農村経済の更生
農村経済と更生運動……130
農産物・繭価の大暴落
救農制度のめばえ……130
経済改善委員会の設置　無尽の負債整理
満州に移住した人々……131
県が青少年義勇軍への参加要請
証言「曠野の青春譜」
第五節　農業諸団体の活動
農会の事業と活動……134
大正時代の事業　昭和初期からの事業
農会の廃止と再建……136

農会解散既成同盟　再建後の活動
産業組合の発達……137
農村経済改善の中核
反産運動と反反産運動
青木村産業組合のあゆみ……138
農業会の設立とその経緯……140
食料増産と農業団体の強化、統合
農業会の組織と事業の内容……140
農業に関する国策に即応すること
戦争に協力した指導機関
第六節　養蚕の盛衰
養蚕業……142
輸出にたよる生糸
稚蚕飼育と共同飼育所
桑の改良……143
大正初期の桑の品種いろいろ
蚕種製造業の転換期……143
女子鑑別手の活躍　蚕品種の整理統一
蚕種の貯蔵と風穴……144
株式組織の貯蔵所　今も残る風穴
製糸業の発展……147
全盛時代の製糸場　煙をはかぬ製糸工場
青木倉庫株式会社……149
債権保存と繭保管のための倉庫
実業補修学校の仮校舎に転身
第七節　商工業の動き
青木商店街の移り変わり……150
葦原だった青木
二線路と電車によって飛躍した青木の町
青木村の工業……152
電気の導入と小工場
戦時中は松根油生産も
田沢炭鉱の盛衰……153
黒いダイヤの生産
たびたび変わった経営者
第八節　林業の盛衰
入会林野の整理と営林の促進……155
効果のあがらなかった公有林野の造林
官行造林法
愛林団の登場……156
愛林団の目的　本村の愛林団
森林組合の設立と実績……157
青木村森林組合　木材ブームと経営
林産物……157
木炭生産組合と木炭検査員
知事賞に輝く「青木木炭」
第九節　伝染病と医療
避病院閉鎖と伝染病院組合……160
川西伝染病組合組織　隔離病舎解散
伝染病組合規約

臨時大種痘 …… 162
大種痘の規模
虎目騒動 …… 163
トラホーム検診成績　治療所開設と閉鎖
腸チフスの脅威 …… 165
大正の法定伝染病　腸チフスの致命率
予防接種始まる
大正の医人 …… 166
本村に関係した医師
巡回する産婆 …… 167
産婆設置・執務規定　戦前の出産状況
忍び寄る結核症 …… 169
戦前の結核
第十節　教育と文化
補習学校の教育 …… 170
男子は夜学、女子は昼学
補習教育の成績は郡下で第一
青年学校の教育 …… 170
国民たるの資質を向上せしむることを目的とす
混乱を極めた学校の増改築問題 …… 172
現地増築説と移転新築説　村長の辞職
同窓会報 …… 174
村の機関雑誌としての役割
同窓会報を舞台に活躍した人たち
男女同窓会の合併 …… 177
同窓会報の終刊 …… 178
「襲いきたる農村恐慌の嵐に、ひとたまりもなく解体されて」
文芸思潮の盛行 …… 178
読みごたえのあった時報 …… 179
「時報の出現は本村文化史上の意味深き一頁を飾るもの」
農民美術 …… 179
農民美術生産組合　信濃風俗人形の製作
大正末期の文芸 …… 180
青木村に花咲いた非売品の各種印刷物
時報の三面記事 …… 181
交通事故の記事　村のラジオの台数
文学研究会 …… 181
発禁をくった時報
同人誌「小鳥」「歩み」
青木文芸史の走り書 …… 182
本村最初の文芸史
来たるべき世の中を予感
休刊に追いこまれた時報 …… 183
過去二〇年間の村の文化的記録
将来村誌編纂者のために必要な文献
絵画 …… 183
画筆をふるった人たち
郷土史 …… 183
郷土の歴史に目をむけ始めたころ
第十一節　消防組から警防団へ

青木村消防組……187
一地区一組から青木村一組へ
救護班の新設
滝山の山火事……188
昭和初年の三回の大火記録
青木（区）消防組の誕生……189
過疎地青木にようやく消防組できる
消防組自主化事件……189
消防組を自主化せよ　法被事件
全員がそろわなかった出初式
大巡検に全員ほおかぶりで参加
警防団……192
防空のための防護団組織　釜房の大火
警防団の発足　防空壕
第十二節　変わっていく村
電灯会社と電気事業……195
ランプから電灯へ　高かった電灯料
電車と自動車の乗り入れ……196
チンチン電車　小県自動車株式会社
貸切自動車と貨物自動車
川西十か村道路組合……199
麻績丸子線・青木鹿教湯線
第十三節　昭和恐慌期の村
昭和恐慌の発生と村の財政……201
村税の減額　苦肉の財政対策
恐慌下の農業……203
つづく慢性的な不況　土地ききん
農産物価の暴落……203
半値前後に落ちこんだ農産物価格
本村での対策……204
農村経済改善委員会
桑園の整理と多角経営
不況下の製糸業……206
繭値の大暴落　蚕糸業統制法の公布
組合製糸……207
不発に終わった「有限責任川西生糸販売組合」
不況下の商工業……208
あいつぐ製糸家の倒産
産業組合の購買活動と青木村商工組合の反目
経済恐慌と銀行……209
倒産や合併をする中小銀行
青木銀行・信濃銀行・八十二銀行
恐慌下の交通と通信……211
木炭自動車・薪炭自動車の登場　電話機の供出
救農工事による道路改修……212
賃金問題でストライキ
失業救済農山村臨時対策事業
第十四節　戦時体制へ
満州・上海事変の真相と「青木時報」……214
「　事実は日本軍のしわざである　」
従軍者と戦没者……214
従軍者の戦争記録

日中戦争と太平洋戦争の概要 …… 214
十五年戦争へ突入
従軍者と戦没者 …… 215
適齢期の男子のほとんどが従軍
二百人を越す戦没者
兵士たちの郷里出発の日 …… 215
盛大な見送りで発った兵士と、一人でひっそりと発った兵士
防空監視哨 …… 216
敵機の襲来にそなえて
青年学校の生徒が隊員
役場元兵事係の回想 …… 217
「平和な今の時代はほんとうにありがたい」
戦没者の村葬 …… 217
式場には声もなく痛恨の思いに唇をかみしめて
戦争に協力した村内諸団体 …… 218
戦時下の各種団体　村民の姿
国民精神総動員と国家総動員 …… 219
海外へ派遣された技術者たち
不可能な増産計画
第十五節　戦いの拡大
食料の増産 …… 220
桑畑が畑に
米穀の統制と農家 …… 220
米穀配給制　移出取締り規則
生産の悪化と皇国農民 …… 220
生産割当
保有量を越えるものは残さず供出
甘藷の貯蔵穴
太平洋戦争と農業 …… 221
戦争へ向けてまっしぐら
供出に強権発動　代用品の生産
隣組の強化と常会 …… 223
戦時下の常会と隣組の役割
隣組緊急回報
大政翼賛会と翼賛壮年団 …… 224
毎日毎日が翼賛運動
耐乏生活・物資の統制と配給 …… 224
戦争完遂のために代用食と代用品の時代
戦争の激化と防災運動 …… 225
白壁に墨をぬってカモフラージュ
防空訓練の徹底
戦時下の保険行政と医療 …… 226
川西病院青木分室の誘致
国民健康保険組合診療所
国防婦人会の役割 …… 228
青木村国防婦人会の結成と役割
青年団 …… 229
男子は応召、女子は挺身隊
各分団の文庫の焼却
戦時下の学校と教育 …… 229
学校教育はほとんど停止
小学校から国民学校へ　勤労奉仕の日々

学童疎開 …… 232
田沢・沓掛温泉に疎開した子どもたち
疎開生活の日々
戦没者とその家族 …… 233
残された年老いた両親　夫をなくした妻
父を知らない子どもたち
食糧危機 …… 234
作ったものが食べられない農家
物資の欠乏 …… 234
みじめなどん底生活
平和思潮の台頭 …… 234
戦争の残したもの …… 235
勝つと思っていたのに
ほっとした気持ちと不安と

第三章　戦後の日本と青木村

第一節　青木村の戦後

占領政策と民主改革 …… 237
終戦の日の役場当直日誌記事
矢つぎ早に出される総司令部の指令
軍国色の排除 …… 238
戦争に関係するもの一切撤去
食糧不足対策村民委員会 …… 239
供出の合理化、食料不足対策
公職の追放 …… 240
本村の追放二〇人
引揚者の生活 …… 240
村の人口が急速に増大
満蒙開拓と帰農 …… 241
引揚者などの生活実態調査
かつぎ屋と物々交換 …… 244
きびしい取締の中をかいくぐって
インフレ …… 244
預貯金の封鎖　旧円と新円の交換
特配品の割当
供出の強化 …… 246
供出の拒否には「強権発動」

第二節　新しい地方自治

地方制度の改革 …… 247
新制度によせる期待
地方統一選挙 …… 248
地方公共団体の長、議員の選挙
第一回村議会
地区、隣組の改革 …… 249
青木村区長規程
最近まであった地区総代
地方税制の改革 …… 251
戦前と戦後の税制の比較
自治体警察 …… 251
わずか七年で終わり

第三節　農民運動のゆくえ
戦後の農民運動 ……252
はなばなしく再発足
急速な衰え ……252
「いつからともなく村民の視野から消えて　」
第四節　消防と防災
消防団の成立と近代化 ……253
警防団から消防団へ
火を消すことから火災予防へ
琴山の大火 ……253
ほとんど灰燼に　消防自動車の登場
水防作業中に殉職
消防団条例と規則 ……254
損害を最小限度に
水、火災の防御、鎮圧に努力
沓掛温泉の大火 ……254
村はじまって以来の大火災
動力ポンプの導入
第五節　農地の改革
終戦直後の農業経営 ……256
新しい農法の研究　食糧事情の好転
農地改革 ……257
農業近代化への基礎
農地調整 ……257
小作関係の合理化を規正
第一次農地改革 ……257
ほとんど農地は開放されず
第二次農地改革 ……257
農地委員会　一〇〇%に近い買収実績
改革後の問題点 ……258
開放者同盟の結成　生産力を増した自作農
第六節　農業経営の変化
農業生産の変化 ……259
戦後の主な農業
機械化と空中防除 ……260
小型耕運機の活躍　ヘリコプターの活躍
養蚕業の移り変わり ……261
掃立回数の増加
青木村共同稚蚕飼育所の完成
畜産業の移り変わり ……263
畜産モデル村　盛んだった各種畜産
奈良本牧場の設営
農機具の普及 ……270
大正時代の農機具　昭和時代の農機具
農業改良普及事業 ……272
4Hクラブ結成に寄与
緑の自転車で普及活動
第七節　農業協同組合のあゆみ
協同組合の設立と経過 ……274
農業協同組合のいろは　農業会の解散
協同組合の組織 ……276

組合員に密着した組織づくり
協同組合の事業 …… 277
信用事業　生産販売事業　購買事業
諸事業
農業会・農業協同組合のあゆみ …… 281
第八節　変わりゆく林業
林業の消長 …… 285
木材ブームから需要の低迷へ
造林事業 …… 287
植林面積の推移
第九節　商工業の復活
混乱期の商工業 …… 289
終戦直後の商工業調査
商工業の移り変わり …… 291
デフレ不況と朝鮮戦争による好景気
第十節　新しい教育
占領下の教育 …… 293
新教育はあくまで個性の完成を目標とする
新学制の実施 …… 293
六・三制の義務教育
学習指導要領による教育
新制青木中学校 …… 294
新制中学校の発足　施設費寄付募集一〇万円
開校当時の思い出
小県蚕業高校青木分校の開校 …… 295
勤労青年に高校設立を
「交通不便な山間地にありがたき恩典」
教育委員会の設置 …… 297
選挙による教育委員の選出
ＰＴＡのはじまりと活動 …… 297
小中学校一体のＰＴＡ
学校給食のはじまり …… 298
補食給食から完全給食へ
学校施設の整備と充実 …… 298
積極的にすすめられた教育環境の整備事業
保育園の設置と移り変わり …… 299
宿海道地籍に保育園できる
第十一節　社会教育のうごき
戦前の社会教育 …… 302
政府指導型の社会教育
戦後の社会教育 …… 302
新生日本の発展を願い、住民の自治意識の高揚をはかる
公民館の発足 …… 303
青空公民館としてスタート
ナトコ映画の思い出
第十二節　文化と文芸
時報の復活と文化と文芸 …… 305
ベテランに伍して戦後派の活躍　くろい土
郷土史 …… 306
村内古文書目録の作成　「村の歴史」の連載

第四章　新しい青木村

第一節　当郷との合併

合併のいきさつ ……309
町村合併促進法
県の示した青木・浦里・室賀合併案
合併委員会とその試案 ……310
二転三転した合併案
青木・浦里・室賀・泉田四か村合併実らず
村民大会で当郷の合併を決議 ……311
当郷区の分村請願を無視した浦里村議会
当郷区の受入れ要請受諾
合併の条件 ……312
合併のさいの協定事項の概要
新生青木村の発足 ……313
正式に合併調印
三年間にわたった合併問題に終止符
村長・村議の辞職と選挙 ……314
新生青木村の村長と村会議員

第二節　新村建設の意気

合併によせる期待 ……315
当郷へ農協支所設置
教育にかかわる諸問題
診療所の建設 ……316
国保直営診療所完成
畜産センターの完成 ……317
畜産モデル村にふさわしい施設
中学校の校舎完成 ……317
特別校舎の九教室できる
役場庁舎の建設 ……317
各課に直接行けるカウンター式で

第三節　村民生活

人口の動き ……318
減少傾向をたどる村の人口
村民の経済生活と就業構造 ……320
農家人口減少と村外勤務者の増加

第四節　消防と防災

当郷分団の合併 ……321
法被を「青木」と統一
台風七号の災害 ……321
村はじまって以来の大災害
犠牲者もでる
原池の地すべり ……322
厳戒体制でのぞんだ消防団
団員の減少 ……322
定員四二八人のうち日中活動できるもの半数
消防操法 ……323
長野県大会で好成績をあげる
ラッパ吹奏
松代群発地震 ……325
震災対策本部の設置と活動

年齢の延長 ……325
本部役員の任期を一年から二年に
自治消防班
広域消防川西分署の発足 ……326
常備消防体制の確立
消防設備の充実強化 ……327
ポンプは運搬車から積載車へ
火災ゼロをめざして ……327
火災の発生状況
第五節　教育の進展
教育委員会制度の改革 ……329
任命制の教育委員誕生
小学校分校の廃止 ……329
大きな役割を果たした分校
三分校を本校へ統合
小県蚕産業高校青木分校の廃止 ……331
入学生徒の減少から一二年間の幕閉じる
学校施設の充実 ……332
着々すすめられる施設、設備の充実
学校給食の充実 ……333
完全給食の実施　学校給食の位置づけ
小学校校舎の新築 ……337
総工費七億三〇〇〇万円
他校にない施設、設備いっぱい
第六節　曲がり角の農業
近代農業への飛躍 ……343
農業の近代化をめざして
第三次青木村長期振興計画
農業基本法による農政 ……344
農業従事者と他産業従事者との所得の均衡をはかる
農業構造改善事業 ……347
早い時期から積極的にすすめられた本村の改善事業
ある農家の人の回想 ……352
農村始まって以来の大事業
明るい希望に満ちた村づくりのために
モデル事業 ……353
広範多岐にわたる事業
その他の改善事業 ……353
生活改善センター　トータルライフ
農業者年金 ……355
農業者の老後の生活安定のために
後継者の確保と経営の若返り
農業共済組合 ……355
目的・事業の内容・組織・運営・仕組
これまでの主な事業と災害
農協の広域合併 ……358
多彩で活力ある地域農業の振興
農協の「生き残り」をめざして　JA青木
米の生産調整 ……360

あまる米　生産調整上の問題点
内外から注目された村ぐるみの集団転作

第七節　水　産　業

養殖漁業 …… 363
当郷養鯉生産組合　村営養殖センター

第八節　林業の衰微

林業改善事業 …… 365
第一次・二次林業構造改善事業
地域活性化林業構造改善事業

森林組合の事業 …… 366
多角経営の青木村森林組合

林　道 …… 369
開削のすすむ林道
一四路線、総延長二万一二八二メートル

第九節　河川の改修

浦野川ほか村内の河川 …… 372
河川改修工事・砂防河川工事・滝川砂防ダム
その他の砂防ダム

第十節　財　産　組　合

財産組合の移り変わり …… 376
青木村及び上田市共有財産組合
戦後の復興に貢献した組合林

財産組合評議会 …… 376
組織と運営　財産組合決算書

第十一節　宗　教

自由で拘束されない宗教 …… 381
日本人の宗教観

神仏分離令と排仏棄釈 …… 381
廃寺になった寺　神社の格付け

氏神様と氏子 …… 381
うぶすなの神　明治期に大部分が新社名に
鎮守の祭

菩提寺と檀家 …… 382
檀家制度　安定した寺院運営

戦前の宗教と講 …… 383
新しい宗教　各種の講

神道の衰退 …… 383
敗戦により大きな影響を受けた神道

寺院の実態 …… 383
固定した檀家組織に支えられた寺院

その他の宗教の動き …… 384
戦後興った各派の宗教

第十二節　各界で活躍した人々 …… 385

第五章　発展する青木村

第一節　福祉制度の充実

授産事業 …… 389
青木村雨具協同組合～村営授産所

授産事業の拡張
生活保護……394
全戸を対象にした生活実態調査から
国民健康保険……394
事業再開と受診状況
国民年金……395
国民年金制度　各種年金制度
児童福祉……396
児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当
老人福祉施設……397
老人クラブ一八支部
活発な老人クラブ活動　緊急電話
社会福祉協議会……399
組織　広範な事業と活動
第二節　住居対策
村営住宅……402
若年層の村外流出防止策
村の木をつかって
分譲宅地の造成……403
青木村土地開発公社　こまゆみ団地
別荘団地の構想……403
琴山地区に村営の別荘地
第三節　医療の充実
地域医療の確保……405
国保直営診療所　歴代診療所医師
青木診療所　日曜祝日、当番医　歯科医療
上小地域治療
成人病の集団検診……408
各種検診成績
病気の構造……419
病気別分類　年齢階層別疾病別受診率
外来病類別分布の推移　死因割合の推移
健康づくりの実際……424
保健衛生事業　予防接種　環境衛生
健康情報　健康づくり各協議会　保健婦
第四節　上下水道対策
し尿・ごみ処理対策……430
青木区落合地籍に焼却炉
六・三美化一斉行動日
上水道の普及……430
滝川ダムの完成と断水の解消
下水道の構想……433
すすむ下水道事業
第五節　進展する社会教育
社会教育と公民館……436
幅広い社会教育　公民館によせる期待
本館と分館の連携
地域婦人会の活動……445
多彩な活動をみせる婦人会
本会離れ、活動の停滞
少なくなる地区婦人会　女性の会の誕生

花嫁衣装の管理運営 …… 451
実績を上げる「花嫁衣装管理委員会」
同和教育 …… 453
社会教育の場で　学校教育の場で
第六節　村内諸施設の充実
次々に誕生する新しい施設 …… 455
老人福祉センター・福祉会館・運動公園
総合体育館・競泳プール・村民プール
中学校普通教室・農村環境改善センター
屋内ゲートボール場・商工会館・デイホーム
リフレッシュパークあおき・郷土美術館
第七節　交通・通信の発達
村の道路政策 …… 463
国道・県道・村道の整備
村営バス …… 463
活躍する村民のメロディーバス
自動車保有台数の推移 …… 467
ふえる自家用車、一家二台、三台は普通
郵便事業の進展 …… 468
郵便局の業務と委託業務
有線放送電話 …… 470
一般放送・緊急放送・広告放送に活躍する有線
難視聴地域の解消 …… 471
各地にできたテレビ共同受信施設組合
第八節　商工業の進展
商工業の移り変わり …… 473
商店数・従業員数　事業所・村内外企業
商工会の設立と活動 …… 484
組織と事業活動　商工会三〇周年
外部企業の誘致 …… 486
農村地域工業導入促進法によって導入された企業
製造業離れと外国人労働者 …… 487
第九節　村の行財政
議会の組織 …… 488
地方自治法以前の議会の組織
地方自治法以後の議会の組織
各種の委員会 …… 489
選挙管理委員会・教育委員会・農業委員会
村の財政 …… 492
昭和三十年以降普通会計における歳出歳入決算の推移
第十節　文化と文芸
時報から館報・広報へ …… 499
館報＝社会教育に重点、広報＝村民と村政のパイプ役
短歌と俳句 …… 499
青木村の歌人と俳人

絵　画……500
青木村の画家とその作品
書　道……501
手習師匠と筆子　青木村の書道
義民の里・青木村……502
義民とふるさと再発見　義民祭と義民太鼓
村　歌……503
小学校校歌から村歌に
歌碑と句碑……503
古代の歌、現代の句
郷土史関係記事……503
自治をになってきた人たち……505
一　村長・助役・収入役
二　議会議員
三　選挙管理委員
四　教育委員
五　郷土美術館長
六　監査委員
七　農業委員
八　消防団
九　小・中学校長、保育園長
一〇　行政相談員
一一　人権擁護委員
一二　保護司
一三　PTA
一四　民生委員
一五　区　長
一六　婦人会
一七　青年団
一八　老人クラブ
一九　農業協同組合
二〇　森林組合
二一　青木村商工会
二二　青木郵便局
二三　青木村警察官駐在所駐在官
二四　医療機関
参考文献・出典一覧……517
あとがき……519
執筆に協力して頂いた方々……521
青木村誌「歴史編下」関係者……522
・刊行関係・執筆関係
・事務局
・編纂室